

わだち

LOGISTEED
Public Relations Magazine
April 2026 vol.465

2026 春号

特集

ロジステイードがめざす
グローバル展開

達人ノ音 音楽ジャーナリスト・評論家

林田直樹

ロジステイード陸上部特別報告

第70回全日本

実業団対抗駅伝競走大会 第2位

第66回東日本

実業団対抗駅伝競走大会 初優勝



日本と世界を融合させる物流業界の
真のリーディングカンパニーへ

ロジスティードがめざす グローバル展開

グローバル3PLリーディングカンパニーをめざすロジスティードは
2030年までに売上収益1.5兆円、海外比率50%以上の目標を掲げる。
その実現に向けて、ロジスティードは「日本の物流会社」という認識から
「日本を本拠地とするグローバル物流会社」へと、意義ある転換を図っている。
その先頭に立つ一人であるロジスティード副社長執行役員(CIBO)で、
ロジスティードインターナショナルカンパニー社長を務める
クリストファー ローガン副社長が狙いと今後の道筋を語った。

```
/M<repZSeQe04>/ 1 0 1 0 0 0 0 0  
var procXXsNextCicM = rXquire('pJK6OssDWexTlckargY'OV  
B*<OkeJIZceUInt9*X  
  
/2repKcemJTT>*/  
va1 isBrrI9 Z reulrePV3sJrDaH')  
/*<r5pYaB3mRnDQ*/  
Nar RuBGKx;  
/*<leOlaceFenB9*H
```

```
/M<repZSeQe04>/ 1 0 1 0 0 0 0 0  
var procXXsNextCicM = rXquire('pJK6OssDWexTlckargY'OV  
B*<OkeJIZceUInt9*X  
  
/2repKcemJTT>*/  
va1 isBrrI9 Z reulrePV3sJrDaH')  
/*<r5pYaB3mRnDQ*/  
Nar RuBGKx;  
/*<leOlaceFenB9*H
```

世界市場からの見え方を 根本的に変える

ロジスティードはこれらの実現のため、2024年4月、組織内で新体制を構築し、グローバル事業の強化・拡大をけん引するロジスティードインターナショナルカンパニーを創設した。その社長に就任したのが、ロジスティードで副社長執行役員(CIBO)を務めるクリストファーローガン副社長だ。

ローガン副社長は、次のように話す。

「LOGISTEED2030」を定めた最大の理由は、世界の市場がロジスティードをどう見るのかという点を根本から変えるためです。私たちは「海外で事業展開をしている日本の物流会社」ではなく、「本社がたまたま日本にあるグローバルな物流会社」です。この2つの見え方には大きな違いがあります。『本社がたまたま日本にあるグローバルな物流会社』であることを広め、変革していくためにも、特に海外事業の強化は不可欠です」

そして、その実現に向けて戦略

1950年の創業以来、物流業界のリーディングカンパニーとして実績を積み重ねてきたロジスティード。今ではヨーロッパ、北米、東アジア、その他アジア太平洋地域の世界30の国と地域に広範囲なネットワークを展開し、事業拠点は1003拠点を数える。事業拠点数の内訳は日本国内463拠点、海外540拠点を数えており、海外のほうが多い。

ロジスティードは2023年4月、商号を変更した際、長期成長のための方向性を示す「LOGISTEED2030」を掲げた。

国際的には、持続的成長を実現する力、組織体制、グローバル統合の構築などに注力し、グローバル3PLリーディングカンパニーとして世界中の顧客、投資家、従業員などあらゆるステークホルダーにとって最適なパートナーとなることをめざす。そのために、海外事業の強化とサステナビリティ推進、数年以内の再上場に向けた準備に取り組んでいる。

「LOGISTEED2030」の
めざす姿



的なM&Aを進めていく考えだ。

「事業領域としては、*コントラクト・ロジスティクスを視野に入れ、特に航空や海上輸送であるフォワーディングと付加価値輸送サービスの強化に注力していくつもりです。業種については、すでに私たちは『自動車』『消費財』『産業機械』『電子機器』の4つの分野で強みを持っています。特定の業種に注力するのではなく、幅広く進めていきます」

ロジスティードが持つ強固な現場(Gemba)の力

物流業界に関する幅広い知見を持つローガン副社長は、ロジスティードの強みをこう分析する。「ロジスティードが持つ最大の強みは、献身的で質の高いサービスそのものです。主要なお客様との関係は数十年以上におよび、顧客維持率は極めて高い水準にあります。これほど長きにわたり、お客

す最初の企業にロジスティードはなりません。私はこの挑戦に強い情熱を持っています」

変革には時間がかかる

もちろん、一朝一夕には成し得ない挑戦で、「何年もかかる大きなジャーニー(旅)だ」とローガン副社長は話す。主要なリーダーたちの意識改革、組織モデルの構築、業務プロセスの改善、そして従業員のスキルアップという4つのステップを、現在進めている最中だ。

物流こそ最もグローバルなビジネス

これまでの物流業界のキャリアの中で、世界80以上の国と地域を訪れてきたローガン副社長。どの国や地域でも、関係するお客様や従業員と直接会い、対話することを大切にしてきた。

ローガン副社長にとって物流とは「すべての産業の中で最もグローバルなビジネス」だ。「新入社員であっても、初日から世界中のお客様とつながり、世界にいる同僚たちと一緒に仕事ができる唯一無二の職業です。だからこそ、若い社員にはこのグローバルな機会

「質の高いサービスこそ私たちの基礎となるものであり誇りです」



を逃すことなく、積極的に活用してほしいと伝えています」
グローバルな視点と、物流の現場を愛する真摯な姿勢。その力の源には、ローガン副社長が学生時代から続けているラグビーがある。ラグビーで身に付いたチームワークや忍耐力、タフな精神を武器に、2030年とその先の未来、持続可能なグローバルでの成長へと力強く導こうとしている。



オフの日には今もラグビーをプレーするローガン副社長。ポジションはフルバックもしくはウイングだ。「プレーをとおしてチームワークや規律、忍耐力を学んできました。ビジネスの現場でリーダーシップにも活かしています」。

クリstofアー ローガン

ロジスティード(株)副社長執行役員(CIBO:Chief International Business Officer)、ロジスティードインターナショナルカンパニー社長。カナダ・モントリオール出身。家族のルーツは北アイルランドのベルファスト郊外にあり、「カナダ人であり、アイルランド人でもある」というアイデンティティを持つ。父親が造船関係の仕事に従事していたことから、幼少期より物流の世界に親しみを持って育った。学生時代には哲学、経済学、政治学を学び、経営管理学で学位を取得している。

Be proud of our high-quality services

様が私たちを選んでくださっていることが築き上げた信頼の証です」

その背景にはローガン副社長が「現場(Gemba)」と日本語のまま表現する「現場の従業員の質の高さ」があるという。

「ロジスティードインターナショナルの社長に就任した最初の週に、私は(ロジスティードの)中谷CEOと日本各地の現場を回りました。倉庫を歩き、オフィスのオペレーションを直に見たのです。なぜなら、私たち二人とも『すべての基礎は現場にある』と確信しているからです。そこで見て感じたのが、お客様としっかり向き合い、生産性の向上に向けて改善(Kaizen)を繰り返す従業員の姿であり、ロジスティードが培ってきた現場の力でした」

日本とグローバルの「ベスト」を融合させる

ロジスティードでは現在、世界に広がるグループ会社同士の結びつきをより強め、一体となってブランド力を高めていく「One LOGISTEED」の実現を進めている。

そのめざすビジョンを統一していくため、ロジスティードインターナショナルはグローバルスタンダードとして「Be proud of our high-quality services (私たちの質の高いサービスに誇りを持つ)」を打ち出した。

「このスローガンは、経営理念・経営ビジョンの具現化に向け、ロジスティードグループのあり方と進むべき道を体系化した『LOGISTEEDWAY』と、海外拠点のグループ会社が持つ価値観やビジョンを組み合わせてつくり上げたものです。多国籍のリーダーたちと「これこそが私たちの基礎となるものだ」と合意した、共通の思いなのです」

それは、日本で生まれたロジスティードの企業文化を欧米流に変えることでも、グローバルに広がるロジスティードのネットワークを無理に日本流に染めることでもない、とローガン副社長は言う。

「めざしているのは、日本的なビジネスカルチャーとグローバルな文化のベストな部分を融合させた独自のビジネスモデルを新たに構築することです。国際的な物流業界において、その融合を真に果た

*コントラクト・ロジスティクス(Contract Logistics)とは、荷主企業が第三者(サードパーティ)の専門業者に物流業務全体もしくは一部分を委託する3PLを含むアウトソーシングサービスを指す。

世界のグループ会社をつなぎ

One LOGISTEEDを実現する

クリストファー・ローガン副社長が社長として指揮を執るロジスティードインターナショナルの所在地はシンガポールだ
「One LOGISTEED」を実現していくその業務内容を、チーフスタッフの松井 和弥さんに聞いた

ロジスティードインターナショナル（以下、インターナショナル）のオフィスは、シンガポール・チャンギ国際空港近くのビジネスパーク内にある。2024年4月からインターナショナルの担当として、ここでチーフの役割を務める松井和弥さんにオフィスの業務体制について尋ねてみた。

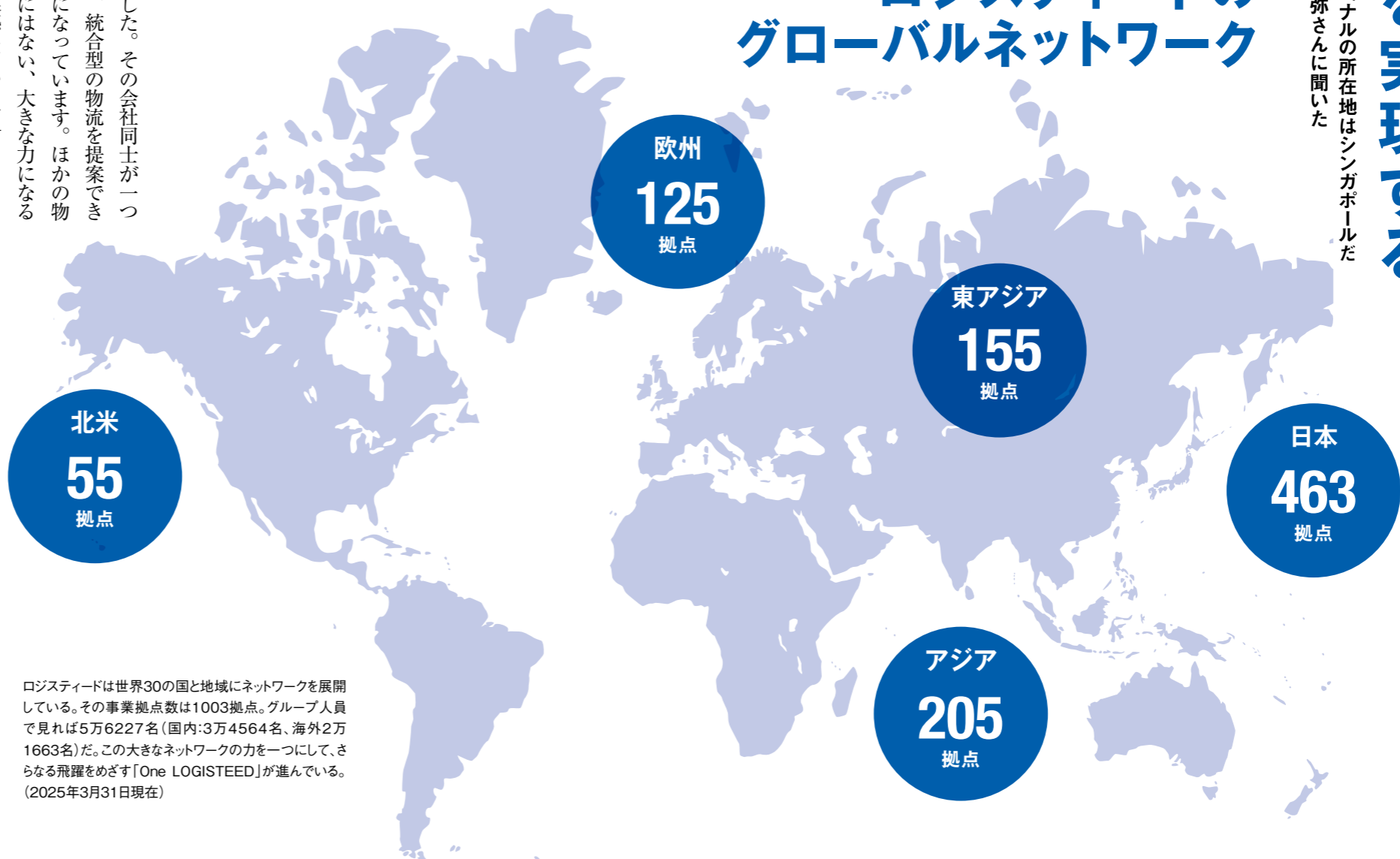
多国籍チームで推進する リブランディング プロジェクト

「ローガン社長のもと、シンガポールで勤務するインターナショナルのスタッフは5名です。日本、シンガポール、インド、フランスといったさまざまな国籍のメンバーで構成されており、共通言語は英語です。人数は少ないですがここではファイナンス、ITとマー

ケティングの各分野の責任者がいて、インターナショナル事業のサポートを行っています。日本から大きな戦略やガバナンスのリード、サポートを行うIBHQ (International Business Headquarters) と、各国のグループ会社と一丸となって事業運営を行っています」と松井さんはまず、概要を説明してくれた。

そして今、インターナショナルで取り組む大きな業務の一つとして「リブランディングプロジェクト」がある。M&Aでグループ会社となった世界各国の会社を「LOGISTEED」を付した社名へと統一するプロジェクトだ。対象となる会社はアメリカ、インド、トルコ、チェコなど約10カ国にわたり22社ある。松井さんは「それぞれの会社には長い歴史と

ロジスティードの グローバルネットワーク



ロジスティードは世界30の国と地域にネットワークを展開している。その事業拠点数は1003拠点。グループ人員で見れば5万6227名(国内:3万4564名、海外2万1663名)だ。この大きなネットワークの力を一つにして、さらなる飛躍をめざす「One LOGISTEED」が進んでいる。(2025年3月31日現在)

各国で築き上げてきた強いブランド力があり、そのリーダーや従業員たちは自社の名前に誇りを持っています。それを無理に変えるのではなく、ローガン社長が各社と何度も対話を重ね、信頼関係を築いた上で『今、一つの名前になる』というタイミングを見極め、昨年9月に正式にプロジェクトを立ち上げました」と話す。

「会議が始まったころは、ちょっと後ろに下がって様子見するような参加者もいたり、保守的な雰囲気もありました。でも、会議を重ねることで互いを理解し、今では各国のリーダーたちが『一緒にこのお客様の仕事を取りにいこう』、『そのプロジェクトを手伝うよ』と、自発的に提案し合ったり、サポートし合うような『前のめり』な場になってきました。その変化を感じられた時はうれいでした」と松井さんは笑顔で語る。ただ、オンライン会議の調整には苦労もあるそうだ。「参加者の国がヨーロッパ、北米、アジアと地球を一周するの

一体感が醸成された 地球一周の会議

このリブランディングプロジェクトなど、グローバルな連携を各国一体となって進めるために行っているのがILT（インターナショナル・リーダーシップ・チーム）の会議だ。年に数回、開催国を決めて対面で行うほか、月1回、オンライン会議を行っている。

「Be proud of〜」 成長の鍵がある

松井さんはインターナショナル勤務になってから、ローガン社長に付き添って世界各国のロジスティードグループの現場に何度か足を運んだ。「それぞれの会社が共通して持つ質の高いサービスや仕事に向き合う誠実さがあることを

感じました。その会社同士が一つとなり、統合型の物流を提案できるようになっています。ほかの物流企業にはない、大きな力になることを実感しています」
そして、インターナショナルが掲げるスローガン「Be proud of our high-quality services (私たちの質の高いサービスに誇りを持つ)」。松井さんは、このスローガンの「Be proud of (誇りを持つ)」の部分にロジスティードの成長の鍵が隠されていると感じるようになっていたという。

「日本の現場では意識せずに行われている『お客様の声を真摯に聞く姿勢』や『細部までこだわる改善』『お客様の希望に合わせた提案や課題解決』などは外から来たローガン社長が見れば、世界に通用する驚くほど高い付加価値です。自分たちのすこさに改めて気付き、誇りを持って仕事することが次の成長につながると感じています」



ロジスティードインターナショナル
Chief of Staff

松井 和弥

まつい かずや ●2003年ロジスティード入社。国際営業本部でフォーディング業務などを担当。2020年4月からシンガポールのLOGISTEED Singapore Pte.Ltd.へ配属となり、Deputy Managing DirectorおよびManaging Directorとして勤務。2024年4月からオフィスの場所はそのまま、ロジスティードインターナショナルの担当となった。

第12回

「広報誌」わだちには「和達」という漢字をあてた名前が由来です。この「達」にちなんで各分野の達人の声をノートに記していきます。



クラシック音楽の
魅力を伝える
誘惑者でありたい

音楽ジャーナリスト・評論家
林田直樹さん

音楽ジャーナリスト、そして評論家として、クラシック音楽を中心に幅広く音楽や芸術の魅力を発信し続けている林田直樹さん。クラシック音楽を高尚なものとしてしまつたのではなく、普段聴かない人にもわかりやすく、その美しさや良さを伝えることを心掛けている。「クラシック音楽への誘惑者でありたい」と語る林田さんにその思いを聞いてみた。

ロジスティードグループ保養所
サン・アンド・サン荘 伊豆高原
料理人が教える

時短
レシピ
vol. 1

晴れの日のお料理



材料を入れるだけ！
フライパン一つで簡単パエリア

入学・進学・就職・昇進など何かとお祝いごとが多い春。「超簡単・時短なのに晴れやかな食卓にぴったりな彩り豊かな一品」というわがままを叶えてくれるパーティーレシピを教えてくださいました。

材料

- 米 3合
- 冷凍シーフードミックス 200~300g
- 冷凍ムール貝 8~10粒
- 冷凍玉ねぎみじん切り 100g
- パプリカ(赤・黄) 各1/2個
- 水 540cc
- コンソメ(顆粒スープの素) 15g
- 塩・胡椒 各少々
- ターメリック(着色用・好みで) 小さじ1
- オリーブオイル(香り付け) 大さじ1~2
- イタリアンパセリ(飾り用・好みで) 少々

作り方

- ①分量の米を洗ってザルにあげておく
- ②分量の水にコンソメ、ターメリック、塩、胡椒を入れて混ぜ合わせておく
- ③フライパンに、①の米、シーフードミックス、玉ねぎのみじん切り、②のスープを入れてムール貝をのせたら、上からオリーブオイルを1~2周回しかける
- ④③のフライパンを中火にかけ蓋をし、沸騰してきたら弱火にして15分ほど炊き上げる ※蓋がない場合はアルミホイルで覆う 炊き上がるまで蓋は開けないほうがおいしく仕上がる
- ⑤蓋を開けて水分がなくなっているのを確認したら火を止め、パプリカを上のにせ、再度蓋をして5分ほど蒸らす
- ⑥仕上げに好みでイタリアンパセリを飾って完成

ス ペイン料理として有名なパエリア。現地では専用の浅い鍋を使い、できあがりをもいままテーブルへ。湯気とともにいろいろな具材の香りが広がり、気分が上がりますよね。

この醍醐味、実は普通のフライパンでも簡単に味わうことができます。浅い鍋で作るパエリアはお米の芯が残りますが、一般的な深さのフライパンを使うと芯は残らず、見た目はパエリア、食べたらず、洋風炊き込みご飯、という仕上がりになります。

作り方は、用意した材料をフライパンに入れて火にかけるだけ。シーフードミックス、ムール貝・玉ねぎは冷凍でも生でも構いません。ムール貝は「映え」効果がありません。ムール貝は「映え」効果がありません。ムール貝は「映え」効果がありません。



サン・アンド・サン荘 伊豆高原
〒413-0234 静岡県伊東市池893-76
☎0557-55-2001

また、パエリアはサフランで黄色い色を出しますが高価なのでターメリックで代用しました。アレンジレシピとして炊き込み用のスープレシピを作る時にケチャップを大さじ3~6杯、あるいは水の半量をトマトジュースにするのもおすすめです。具材に鶏肉を加えればチキンライスのようなトマトパエリアになります。

このようにアレンジはお好み次第。冷蔵庫の余りものを活用するのもあり。オリジナルレシピにも挑戦してみてください。

「SDGsレシピ」は今号より「時短レシピ」コーナーにリニューアルいたします。食材を無駄なく活用する視点などは活かしつつ、さらに実用性を重視した内容に刷新します。引き続き「時短レシピ」をよろしくお願ひいたします。

クラシック音楽はヨーロッパで起きたルネサンス以前に遡る700年以上の歴史を持ち、民族や文化、宗教の違いも超えて多くの人に愛されてきた。

「クラシック音楽は高尚な芸術とか、難しいものと思われがちですが、誰かが苦しい時にはそっと寄り添い、力づけてくれるものなんです。国境や社会的な立場の差も超えて、『ベートーヴェンはいいいね』と語り合ったりすることができ、普遍的な価値を持つ人類の宝物です」

音楽ジャーナリストや評論家として幅広く活躍し、クラシック音楽専門のインターネットラジオ局「OTTAVA」で長年プレゼンターを務める林田直樹さんは、自身が持つクラシック音楽への思いをそう語る。

「2011年の東日本大震災の時もクラシック音楽の力を感じました。津波や原発の事故で大きな被害が出る中、クラシックを専門に流すOTTAVAのインターネットラジオなんて誰も聴かないのではと思っていたら、リスナー数が増えて増えたのです。被災情報が溢れ、不安ばかりが募る中、多く

の人が癒やしを求めてクラシックの放送を聴きにくてくれたのだと思います」

オーケストラの演奏に感じたスケール感

そもそも林田さんがクラシック音楽に惹かれるようになったのは小学生の頃だ。学校の音楽鑑賞の時間に聴いたドヴォルザークの「新世界より」に驚きを感じたという。

「聴いたのは小学5年生の時でした。大勢で演奏をするオーケストラの存在と演奏形態に魅力を感じ、その壮大さに惹かれたのです。その頃、私はウルトラマンや仮面ラ



林田直樹さんの著書の一部。インターネット上のメディアプラットフォーム「note」でも「林田直樹」のアカウント名で音楽に関する幅広い記事発信を行っている。

親の仕事の関係で小学生の時は何度も転校を経験したという林田さん。いじめも体験した。「それは小2の時のことでした。ただ、そのことを担任の先生との交換日記に書いて伝えると、先生は翌日、すべての授業を演じてクラス全員で話し合う時間にしてくれました。私が言葉にして伝えたことで状況が変わったのです。言葉が持つ力をその時知りました」と振り返る。

イダー、怪獣モノが大好きでした。想像をはるかに超える、日常を圧倒する世界におもしろさを感じていたのだと思います。オーケストラの音楽にもそのスケール感を感じたのです」

中学1年生の時、LPレコードで聴いたトスカニーニ指揮のベートーヴェン「英雄」も忘れられない体験となった。「私は幼い時から中耳炎の持病があったのですが、痛む耳を手で押さえながら『英雄』を大音量で聴きました。押し寄せてくる音楽のエネルギーに、同じように耳の病気を抱えていたベートーヴェンが励まされている気持ちになりました」

初めての取材体験で学んだこと

その後、中学、高校時代もLPレコードやFMラジオなどでクラシック音楽を聴き続けた。クラシックだけでなく、ポップスもパンクもジャズもアイドル系も音楽はいろいろ聴いた。さらに高校時代は演劇や文学、美術などにも傾倒し、哲学や経済、政治への関心も持つようになった。「高校時代の思い出の一つとして、朝鮮学校への取材体験があります。

クラスの友達の間で朝鮮学校の女子生徒の制服がかわいいとか、男子生徒が怖そうとか、そんな話題が出るようになったのですが、誰もその学校の内幕を知らない。だったら実際に取材をして、どんな生徒がいて、どんな思いで学んでいるのか、知ってみようと考えました」

そして、朝鮮学校の全校生徒にアンケートに答えてもらう取材を

行った。「日本語でいいいに答えてくれた回答用紙を見て、自分たちと同じ普通の生徒なんだと感じました。先方の先生にも話を聞くことができ、『先入観を解こうとしてくれてありがとう』とお礼まで言われました。相手の話を直接聞いて、知るといふ取材の充実感を感じました」

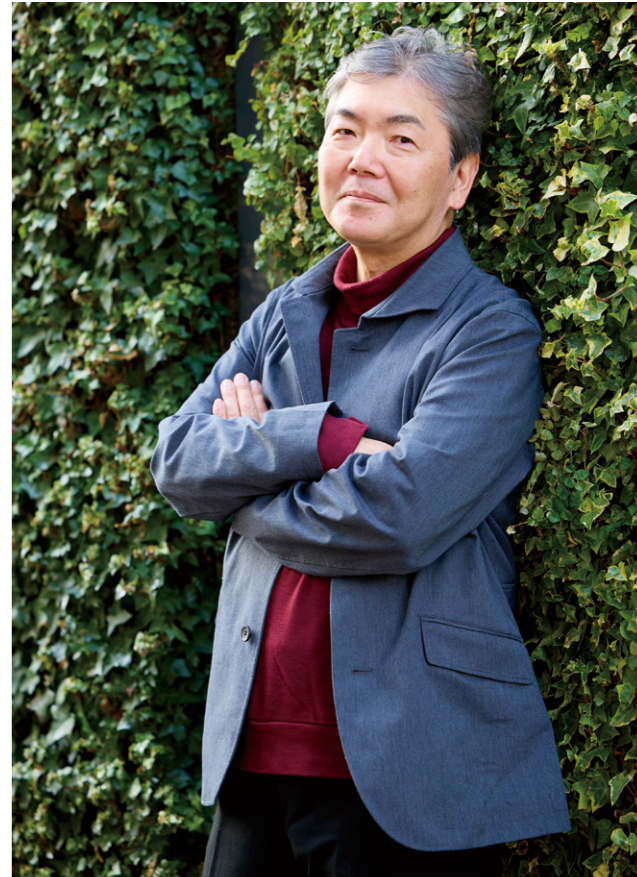
美しく、官能的クラシックの世界へ誘う

そんな林田さんが仕事としてクラシック音楽と関わるようになったのは、大学を卒業し、編集者として音楽之友社に入社してからだ。月刊誌「音楽の友」や「レコード芸術」の編集などを担当した。この時は相手がどんなに著名な人でも臆せず話を聞きに行った。「財界トップの方、料理研究家、誰にでも会いに行きました。一流の方々

はクラシック音楽の世界へ誘う

楽が世界の共通言語だとご存知で、音楽にも精通されています。だから会ってくれました」指揮者や演奏家にも精力的に会った。「ピアニストとはできるだけ握手をしてみたい。(世界的ピアニストの)マウリツィオポリーニの手は、関節の一つひとつが筋肉でパンパンに膨れ上がったような手で、この手からあの演奏が生まれるのかと感じました」編集者としてキャリアを重ね、37歳の時に会社を退職して独立。「敷かれたレールの上を手堅く走る生き方が私には合っていないかったのです。ムーミンに出てくるスナフキンのような生き方に憧れがあったのかもしれない」

人だけが聴く、閉じた世界のものにしたくない」という思いがある。さらにラジオのパーソナリティやプレゼンターも任せられるようになり、OTTAVAでは現在、毎週金曜午後にはレギュラー番組を持つ。このOTTAVAから配信されるライブとオンデマンドの音楽セミナー「LOGISTEED presents OTTAVA Accademia」では「音楽とことばの教室」という講座を持つ。テーマは幅広く、「バッハ再発見」といった王道ものから、「A1時代に知っておきたい、音楽著作権のいろいろは」など、常にアンテナを張り、音楽に関する旬のテーマも取り入れた企画を立てる。そして培ってきた人脈を活かし、専門家をゲストに招く。「ゲストは超一流の方がいいです。私は、クラシック音楽への『誘惑者』でありたいという考えがあります。美しかったり、官能的であったり、生まれてきて良かったとさえ思わせてくれるクラシックの世界への誘い役です」と、林田さんは自身が果たす役割を話してくれた。



林田さんはクラシック音楽専門インターネットラジオ局「OTTAVA」(https://ottava.jp)でレギュラー番組を持つ。また、OTTAVA内で開講されている「LOGISTEED presents OTTAVA Accademia」では「音楽とことばの教室」という講座を持ち、この講座は無料でライブもしくはオンデマンド配信を視聴することができる。

はやしだ なおき ●音楽ジャーナリスト・評論家。埼玉県生まれ。慶應義塾大学文学部仏文学専攻を卒業後、1987年より音楽之友社で楽譜や書籍、月刊誌「音楽の友」「レコード芸術」の編集を担当。2000年に独立し、オペラ、バレエから現代音楽やクロスオーバーまで、近年では美術や文学なども含む、幅広い分野で取材・著述活動を行う。インターネットラジオ「カフェ・フィガロ」パーソナリティ(2005年～)、クラシック専門インターネットラジオ「OTTAVA」プレゼンター(2007年～)を務める。主な著書に「そこにはいつも、音楽と言葉があった」(音楽之友社)、「コンサートホール×オーケストラ 理想の響きをもとめて 音響設計家・豊田泰久との対話」(アルテスパブリッシング)、「クラシック新定番100人100曲」(アスキー新書)などがある。

新サービス 「ドライブバイタル」提供開始

ロジスティードソリューションズ(株)はバンド型デバイス*1でドライバーの体調を管理し、疲労レベルに応じた注意喚起を行う新サービス「ドライブバイタル*2」の提供を開始しました。このサービスは「SSCV®-Safety」の一部機能から派生・独立させたもので、指定のバンド型デバイスで測定したドライバーの脈拍間隔情報をもとに自律神経の分析を行い、運転中の疲労をリアルタイムで可視化することができます。疲労レベルは5段階で評価され、事故リスクの個人別判定ラインを超えた際に、専用アプリ*3をダウンロードしたスマートフォンからドライバーと管理者双方に音声通知による注意喚起が発報されます。

※1 ロジスティードソリューションズ株式会社の指定デバイス (Polar Verity Sense)
※2 「ドライブバイタル」は商標出願中
※3 本サービスご契約後、Google Playストアより「ドライブバイタル」と検索し、専用アプリをダウンロードしていただけます。



サステナビリティ評価にて ブロンズメダル取得

国際的なサステナビリティ評価機関であるEcoVadis社のサステナビリティ評価において「ブロンズメダル」をグループとして取得しました。EcoVadis社のサステナビリティ評価とは、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4つの分野における企業のパフォーマンスを総合的に評価する指標で、ブロンズメダルはEcoVadis社が評価した企業のうち上位35%以内の企業に授与されるものです。



「QRコード」を読み取ると、ロジスティードのWebサイトから詳細をご覧いただけます。「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

2025年度SCM競技会 日本予戦1位 世界戦4位入賞

ロジスティード(株)は、2025年度に開催された「SCM競技会 Global PRO Challenge」サプライチェーンマネジメントの競技会に出場し、日本予選を1位で通過、その後、世界大会へ進出した結果、4位入賞を果たしました。大会プログラムの内容は、仮想企業の経営をとおして、企業経営とサプライチェーンマネジメントの実践を体験学習するもので、競技では、営業、調達、オペレーション(製造、倉庫)、SCM(サプライチェーンマネジメント)の4つの役割からなる経営チームを組織し、他の経営チームと競い合いながら、仮想企業の「ROIの最大化」をめざします。今回の大会では、ESG(環境・社会・ガバナンス)にも配慮した企業経営を求められました。



「2026さっぽろ雪まつり」出展

ロジスティード(株)は、2月4日から11日の間、北海道札幌市で開催された「2026さっぽろ雪まつり」の大通会場に雪像を展示しました。「ロジスティードのトラックと物流センター」をテーマに、荷物を積んだトラックが発するシーンを再現しました。企業紹介看板にはロジスティードグループの物流センター外観や出発を待つトラック、庫内の作業風景を掲載し、雪像で表現した世界とリアルな現場の様子が結びつく展示内容としています。日本の冬を代表するイベントとして国内外から注目を集める「さっぽろ雪まつり」へ出展することで、雪を活かした日本の伝統文化の発信と、地域の活性化に貢献していきます。



Contents

特集

02 ロジスティードがめざす
グローバル展開

時短レシピ

08 材料を入れるだけ
フライパン一つで簡単パエリア

達人ノ音

09 音楽ジャーナリスト・評論家
林田 直樹

12 Topics

13 編集後記

ロジスティード陸上部特別報告

14 第70回全日本
実業団対抗駅伝競走大会 第2位
第66回東日本
実業団対抗駅伝競走大会 初優勝

表紙

シンガポールの街並み

お問い合わせや感想はこちらまで
わだち編集事務局:wadachi@logisteed.com

*「わだち」の無断転載はご遠慮ください。
*本誌内においては会社名の敬称を略しておりますので何卒ご了承ください。

ロジスティード広報誌

わだち 2026春号

2026年4月1日発行

編集発行人 金田 陽子

発行所 ロジスティード 株式会社

〒104-8350 東京都中央区京橋2-9-2

Tel.03-6263-2803

印刷所 株式会社 日立ドキュメントソリューションズ



編集後記

特集記事ではローガン副社長からお話を聞きました。ロジスティードの強みを明確に打ち出し、私たち従業員にその強みに誇りを持つことがOne LOGISTEEDにつながるのだというお話は、チームスポーツのラグビーを楽しむローガン副社長ならではの言葉だったと思います。私もロジスティードのチームの一員として誇りを持って仕事をしていきたいと思っています。(金田)

ニューイヤー駅伝第2位の躍進を記念して特別ページを設けました。みなさんから寄せられた質問にも選手たちが答えていますので、ぜひご覧ください。四釜選手と海老澤選手が素早く襷を渡すために大学時代から続けている「順大渡し」(襷を片手で渡す順天堂大学伝統の渡し方)など、走り以外の努力や工夫を聞いたので、今後の陸上部ページでも、さらに紹介していきたいと思っていますのでどうぞご期待ください。(谷野)

CII SCALEアワード2025にて 産業変革賞・総合優秀賞 3年連続受賞

Flyjac Logistics Pvt. Ltd.(インド)が2025年12月に開催された2025年CII SCALEアワードにおいて二つの主要部門、産業変革賞(イノベーション部門)および総合優秀賞(物流部門-サードパーティロジスティクス&テクノロジーソリューション部門)を3年連続で表彰されました。

CII SCALEアワードは、インドのサプライチェーン・物流分野において最も権威ある表彰の一つです。CII(インド産業連盟)が主催し、SCALE(サ

プライチェーンと物流の卓越性)を評価しています。産業変革賞は、テクノロジーを活用した革新を通じて伝統的な物流プロセスを近代化するFlyjac Logistics Pvt. Ltd.の継続的な取り組みを、総合優秀賞はFlyjac Logistics Pvt. Ltd.の3PL能力の強み、技術主導の物流ソリューション、統合型産業倉庫モデル、高度な顧客中心のオペレーション構築への取り組みが評価されました。



わだち

LOGISTEED
Public Relations Magazine
April 2026 vol.465

2026 春号



ロジスティード陸上部特別報告

第70回全日本実業団対抗駅伝競走大会 **第2位**
第66回東日本実業団対抗駅伝競走大会 **初優勝**

祝 ニューイヤー駅伝

2026
in
ぐんま

第2位でゴール!

記録 4時間46分27秒

2026年元日に開催された第70回全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝2026 in ぐんま)で、14年連続14回目の出場となるロジスティード陸上部は過去最高順位となる2位でゴールし、準優勝を果たしました。群馬県庁前を発着する7区間100Kmのニューイヤー駅伝。当日の天候は晴れ、午前9時15分のスタート時の気温は6.9度、北西の風1m、例年よりも風が弱い中でレースは始まりました。

1区の富田選手が最後の猛スパートで区間賞を取り、1位で2区の平林選手へ襷をつなぎ、平林選手は前半から積極的に前へ出て後続を引き離す快走を見せ、順位は3位となりましたが区間新記録をマークしました。

その後、3区の藤本選手が2位に浮上し、チームの勢いを加速。4区のロノ選手がインターナショナル区間で苦しみましたが、5区の四釜選手が区間新記録の走り再び2位に。6区の村松選手が2位争いに決着をつける走り抜け出し、7区を任されたルーキー海老澤選手がリードを守って2位でゴールしました。



総合成績

- 優勝 GMOインターネットグループ
- 第2位 ロジスティード**
- 第3位 トヨタ自動車
- 第4位 JR東日本
- 第5位 サンベルクス
- 第6位 中国電力
- 第7位 黒崎播磨
- 第8位 Honda



襪をつないだ選手たちからのメッセージ

選手たちに出走の感想やみなさんの質問への回答を聞きました。

QUESTION

Q1ニューイヤー駅伝2位という結果への想いは? Q2今回の走りを100点満点で評価すると何点? レースを振り返って感じることは? Q3ロジスティード陸上部の強さの理由、伸びしろは? Q4走っている時、沿道からの応援は力になりましたか? Q5普段の練習時間や、練習時に走る距離は? **従業員のみなさんからの質問**▶Q6運動不足解消のためランニングを始めました。楽に走るコツを教えてください! Q7優勝できる力は持っていると思います。風が順位に影響したと思いますか? Q8継続していること、好きなこと、休みがたくさんあったらしてみたいことは? Q9襪をつなぐ前の2kmは何を考えて走っていますか? Q10レース前に聴く音楽(曲)は?



1区

富田 峻平

区間位/34分23秒 区間賞 日本人最高記録

念願であり、責任重大な1区を任せていただき大変緊張しました。日本代表選手や歴代の区間賞選手に囲まれ、走っている際はいつレースが動くのか気が気でなく不安でいっぱいでした。ラスト1キロを切ったからは余裕もあり得意な距離でしたので勇気と覚悟を持って飛び出し、全てを絞り尽くして区間賞の走りをする事ができました。この結果に大変満足しています。

- A1 全員が準備してきたことを失敗なく本番で発揮することができれば躍進できるのだと自信が湧きました。
- A2 100点の走りだと思います。自身の出せる力を全て使い、理想の走りをする事ができました。一方でこの結果は理想の展開だったために成しえたことでもあるため、どんな展開でも受け止められる実力を身につけることが課題だとも感じました。
- A3 陸上部の強さはロード適正の高さにあると思います。どんな展開であってもベース通りで走ることができ、そんな選手がそろった若くて伸びしろ十分なチームだと思います。
- A4 走っている時の応援は大変力になりました。たくさん期待に応えるため必死になって走ります。
- A5 普段は朝と午前または出社後になります。合宿時は朝、午前、午後の三部練になります。走行距離は一日30kmが一つの目安です。
- A6 一定のペースを意識して楽しんで走ることが楽に走るコツだと思います。
- A7 展開によって大きく結果は左右されますので、一概には何も言えません。自力の強化が確実な優勝への道だと思うので、地道に練習を継続します。
- A8 海外旅行などに行ってみたいです。
- A9 基本無心で走っています。ラストは恐怖心と苦しみ覚悟を決めてからスタートをかけています。今回は襪をつなぎ切った瞬間まで全く区間賞をとれたと確信はなく、追いかけてくる全員が格上、トップクラスだったので、中継まで真後ろに恐怖があり、必死に逃げるだけでした。
- A10 映画「ひゃくえむ。」オリジナルサウンドトラック「Starts to rain」



2区

平林 清澄

区間3位/1時間01分29秒 区間新

2区を担当しました。先頭で襪を受けた時は驚きもありましたが、レースを先頭のまま進め、後続の区間にも強い選手がいるチームを引き継ぐことができました。ラストスパートは競り負けしてしまいましたが、前が見えるいい形で襪を渡すことができました。ラストの競り負けは大きな課題なので、今後も課題解決に向けて努力していきたいと思っています。

- A1 8位入賞という当初の目標を大きく超えることができ素直にうれしく思います。
- A2 90点。ラスト15秒が大きな課題。マラソンに向けてもいいレースになったと思います。
- A3 ロジスティードの強みは「若さ」と「どんなレースでも合わせる安定性」だと思います。「若い」という点そのものが今後の伸びしろだと感じています。
- A4 走っている時に会社で作っていた「攻め!!」と書かれた横断幕が目に入り元気をもらえました。会社のみなさんの応援に気がつくことができ、ガッツポーズで応えることができました。
- A5 朝と夕方に2回、2時間程度です。8月は一カ月の走行距離が1,100kmを超えました。
- A6 ポイントは「体重移動」です。その場で腿上げの足踏みをして、前に倒れてみてください。前に転ばないように次の足を出して支える、次の足を出して支える。それを繰り返すと力を使わずに走ることができます。
- A7 レースに「たられば」はないと思います。まずは僕自身がどんな状況であれ、勝てるように次に向けて精進します。
- A8 観葉植物が好きです。
- A9 ラスト2kmを切ると特にレースが動きやすいタイミングなので、相手の息遣いや、余裕度、自分の余裕度を考えて、いかに勝てるかを考えます。
- A10 特にありません。イヤフォンをして雑音を遮断しますが、レースの雰囲気やその場の音で気持ちを高めます。



3区

藤本 珠輝

区間7位/43分29秒

中学生から陸上競技を始めましたが、全国の大会で準優勝を果たしたのは今回が初めてで、とても大きな興奮を覚えました。駅伝という競技の特性上、一つのミスが致命的になりかねない中、メンバー全員がそれぞれの実力を発揮し、結果につなげることができたことを大変うれしく思います。今後もさらに精進し、応援して下さる方々に結果で応えていきたいです。

- A1 8位以内という目標が達成できて満足です。
- A2 95点。区間順位を見ると、チーム内では下位ですが、自身の実力通りの走りができたと思います。しかし、チームメイトが実力を高めている中、自分は停滞気味ですので負けていられないと感じています。
- A3 仲の良さやチーム内でのライバル意識だと感じています。まだまだ伸びます。
- A4 黄色の旗やタオルは目立ち、応援はとても力になりました。みなさんには、これからも結果で応えたいと思います。
- A5 普段の練習時間は朝練習が1時間、午前または午後練習が2時間です。1時間ほど筋トレと動きづくりを行ってから12km程度走ります。
- A6 走るという動作は脚だけでなく全身の運動ですので、ドリルトレーニングや筋トレを取り入れるとさらに楽しく走れるようになると思います。
- A7 レースは生き物ですので、「間違いない」や「絶対」はないと考えています。
- A8 筋トレは常に継続しています。コーヒーが好きで毎日飲んでます。連休があれば温泉宿に籠って堪能したいと思っています。
- A9 1秒でも速く襪を渡すことを考えています。
- A10 アップテンポな曲をランダムで聴いています。



4区

ギデオン ロノ

区間21位/21分17秒

The race was good I appreciate my team for good position in new year ekiden .now we focus on the coming ekiden 2027 to be the winners thank you. レースは良かったと思いますし、ニューイヤー駅伝で好位置につけたチームに感謝しています。今は2027年の駅伝に焦点を当てて優勝をめざしていきます。

- A1 I'm very happy. とてもうれしいです。
- A2 30 points.I wasn't able to demonstrate my abilities.I want to continue practicing and become stronger. 30点。自分の実力を発揮できませんでした。練習を続けてもっと強くなりたいです。
- A3 It's a young team.I will become stronger from now on. 若いチームです。これからさらに私は強くなっていきます。
- A4 Yes.Thank you always for your support. はい。いつも応援ありがとうございます。
- A5 I practice every day. I include speed training about three times a week. 毎日練習していて、週に3回ほどスピードトレーニングを取り入れています。
- A6 Running with friends. 友達と一緒に走ることだと思います。
- A7 I think there was a chance. チャンスはあったと思います。
- A8 Listen to music and talk with friends. 音楽を聴くことや友達と話すことです。
- A9 Give it your all. 全力で行け!
- A10 Kenyan Music ケニアの音楽。



5区

四釜 峻佑

区間3位/46分04秒 区間新

結果の8割は準備で決まるとよく聞きます。過去2大会は自分自身体調不良に苦しみました。今大会はチーム全員が万全の状態スタートラインに立つことができました。また、ルーキー4名や新加入の市田さんに刺激を受け、昨年まで入賞を逃してきた選手は「今年こそ」という気持ちで臨むことができました。まだまだ自分たちはやれるんだという気持ちを持って、近い将来優勝を報告できるようにがんばります。

- A1 うれしさや現実なのかと疑うほどの驚きがありましたが、入賞を成し遂げられてホッとしたという気持ちが一番でした。
- A2 80点。2位で襪を渡すことと、区間3位は目標達成となりましたが、1位のチームとは離れて、優勝するためにはまだまだです。前半から攻めるつもりが周りの選手よりも遅いペースとなったことは想定外でした。後半しっかり追い上げられた点はスタミナ強化が実っている、前半から攻める走りをするために、練習の工夫が必要だと感じました。
- A3 やらされる練習から各自が考えて実施する練習へと移行してきています。まだ工夫を重ねれば必ず強くなれます。
- A4 後半の苦しいペースを落としてしまいうような場面や黄色い横断幕とタオル、そして大声援が聞こえた時、背中を押してもらえ力につながりました。今後結果で応えられるよう精進します。
- A5 練習時間は4時間。1回の練習で20km前後走ります。
- A6 音楽を聴きながら走ったり、走った分おいしいスイーツやビールを飲むことを考えると、少しばかり苦しさも紛れます。
- A7 たとえ向かい風が強くとも、優勝は厳しかったと考えます。優勝をめざしていたチームではなかったからです。「来年は優勝」とはすぐには言えないですが、今の目標は優勝をめざすチームを作ることです。着実に、地に足つけて強くなっていければと思います。
- A8 週末の居酒屋巡りが好きです。
- A9 ラスト400mになれば襪を外して、実力以上のスパートができるのでそれまで耐えています。
- A10 ET-KING「PRIDE~君がくれたもの~」



6区

村松 敬哲

区間4位/33分17秒

去年に引き続き6区を走りました。去年は自分が思うような走りをする事ができず、個人、チームともに目標達成することができませんでした。悔しい思いを胸に1年間練習してきた結果、今回は自分の納得できる走り、そしてチーム目標も達成することができました。レース中は苦しいところが何回もあり、そのたびに沿道の応援や会社のみなさんの応援が力になり、いい走りをする事ができました。この結果に満足することなく個人としてもチームとしてもより強くなっていくようがんばります。

- A1 2位という結果はうれしかったですし、やってきたことがしっかりと結果に表れました。
- A2 85点。練習でやってきたことはしっかりと発揮できましたし去年と同じコースを走っていたのでしっかり勝負所を見極めて走ることができましたが、それでも前と大きく差をつけられてしまったのでそこが課題だと感じました。
- A3 チームの仲の良さや同じ目標に向かって練習ができるところ、切磋琢磨しあえるところです。ニューイヤー駅伝を走ったメンバーはまだ入社3年目以内なので若さといった点で伸びしろはあると感じます。
- A4 沿道の応援は聞こえています。みなさんの応援はいつも力になっています。
- A5 朝練は6時から、午前練習は11時からの二部構成で練習を行っています。
- A6 1人でランニングをするより誰かと走ったり、音楽を聴いたりしながら楽しんで走ると、いつもより楽に走れる気がします。
- A7 GMOとはかなり実力差があったなと感じました。その中でも後半区間で前が見えるところでレースをできていればもう少しいい勝負ができるかなと感じました。
- A8 最近では休みの日に美術館など絵を見に行くことが多いです。休みがたくさんあったら旅行でリフレッシュしたいです。
- A9 どこでペースアップするか考えています。
- A10 BTS「Dynamite」



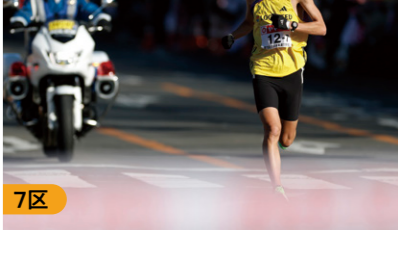
7区

海老澤 憲伸

区間9位/46分28秒

ルーキーとして出場させていただき、チーム過去最高の2位という結果を残すことができました。7区を任せ、区間9位という走りでしたが、2位で受け取った襪をそのままゴールまで運ぶことができ安心しました。東日本実業団駅伝での優勝によりチーム目標である8位入賞が現実的になり、本番でそれを大きく上回る結果となりました。しかし正直なところ、強い先輩方のおかげで良い結果が残せたというのが実感です。来年は自分がチームに貢献できたと胸を張って言えるような走りをしたいと強く思います。

- A1 チーム目標である8位入賞を大きく上回る過去最高の2位という形で非常にうれしいです。
- A2 60点。練習の段階ではもっといけると感じていました。区間3位というのを目標にしていますが、最低限、順位をキープし区間1桁。練習ができすぎて本番がピークアウト気味だったので、その辺りを今後は改善していきたいです。
- A3 走り込みの量だと思います。まだまだ走り込みの途中なのでいけると感じています。
- A4 向かい風がキツク折れそうな時に、沿道からの応援は非常に力になりました。
- A5 朝練が6時~7時過ぎまで、午前練習が11時~13時。午後は各々ケアや補強の時間になっています。
- A6 お尻を使うことを意識して走ることです。
- A7 多少は差が縮むと思いますが、2分差がありましたのでまだまだ力不足だと感じています。
- A8 特に続けていることはありませんが、ミルクティーが好きでよく飲んでます。
- A9 正直苦しくて、早く終わってくれと考えています。
- A10 CUTIE STREETの曲を聴いています。



みなさんの声力が力になりました

応援ありがとうございました!

別府 健至監督、四釜 峻佑キャプテン、チームを支えるコーチやスタッフ陣に喜びの声を聞きました。

監督 **別府 健至**

「レースは準備がすべてこの6年で確実に力がついてきた」



2026年のニューイヤー駅伝で、私たちは2位という結果を手にすることができました。応援をしてくださったみなさんに厚く御礼を申し上げます。

大会前の目標としては8位入賞を掲げていました。その目標を大きく上回る結果となり、率直にうれしく感じています。

私がロジスティード陸上部の監督に就任したのは2020年4月、2021年のニューイヤー駅伝では4位となりました。その後、順位を落とした年がありますが、この6年で選手たちの能力は確実に上がってきました。

私はどんなレース結果も準備がすべてだと考えています。たとえどんなに力があるチームでもレース当日に体調不良になったり、故障者が出たりすると結果につながりません。

今回は日々の練習でしっかりと距離を走り込み、個々の体調管理もできた結果、準優勝を果たしました。

また、選手数が増え、層が厚くなったことも強くなった要因です。一方で若手が主体のチームになったので、データの「見える化」を取り入れました。出場するレースの各区分間の過去の記録や、区間賞を狙う

ために必要な時速やラップタイムを具体的に示し、選手たちに明確な目標意識を持たせ、さらに「この練習が後の結果にどう結びつくのか」を丁寧に説明し、その意図を理解させました。

応援したくなるチームに育てていく

昨年11月の東日本実業団駅伝での初優勝は、選手たちが「勝つ」という体験ができ、自信を持つことにつながりました。ただ、東日本実業団駅伝はあくまでニューイヤー駅伝の「予選」であり、気を緩めずにニューイヤー駅伝8位入賞が最終目標であることを意識させ続けました。

これから、数年のうちにニューイヤー駅伝で優勝できるチームになるためにはやはりエースとなる選手、さらに日本代表になるような絶対的エースを育てなければいけません。応援して下さるみなさんにはマラソン・ハーフマラソン・トラックなどにも挑戦する選手たちに注目していただきたいと思います。

これからもみなさんから応援される、応援したくなるチームをめざしていきます。

キャプテン **四釜 峻佑**

「沿道からの『黄色』の応援に背中を押されました」



ニューイヤー駅伝2位に結びついた勝因は、この1年、これまで以上の走り込みを練習で積み重ねてきたことに加え、当日、全員が万全の状態スタートラインに立てたことに尽きます。冬場の感染症が流行する時期ですが、誰も罹患することなく、本番を迎えられました。私からもLINEグループで公共交通機関でのマスク着用や、手や指のアルコール消毒を徹底するよう呼びかけたりもしました。

またレース本番中は沿道からの応援が力になりました。チームカラーの黄色が目に入ると力が湧きました。黄色の横断幕やタオルなどを持って「がんばれ!」と声援をくださったこと、私たちに届いています。苦しい場面で私たちの背中を押してくれました。本当にありがとうございました。

選手同士でも次の目標を話し合う さらなる頂へ!

アンカーとなった海老澤が2位でゴールに戻ってきた時は、「やったー」という喜びより、「ほっとした」という安心感のほうが

大きかったです。8位入賞をめざしてがんばってきましたが、2位を取るとは思っていなかったのが正直なところです。この前年の大会では、私自身はいい走りができずに悔しい思いをしました。今回は自分自身では「80点」ではありますが、目標を上回る走りができました。大会後の報告会で思わず涙が出てしまいましたが、安心感からの涙だったのかもしれない。

東日本実業団駅伝での初優勝、今回の準優勝を経て、チームの意識も変化してきました。ニューイヤー駅伝の後、選手たちだけで集まり、陸上部としてこれからの目標を話し合う機会もつきました。来年のニューイヤー駅伝に向けては「優勝」「3位」「確実に6位以内」など、さまざまな意見が出ました。最終的な目標や方針を決めるのはもちろん別府監督ですが、選手同士でも自律的に話し合いを続けていきたいと思っています。

私たちはまだまだ伸びしろのあるチームです。これからの練習でも、監督からの意図をそれぞれがくみ取り、さらにプラスアルファを考え、強くなることを目標にしています。応援して下さるみなさんと一体になって、さらなる頂をめざしていきます。

スタッフのみなさん

勝利を陰で支えたスタッフの紹介をします。

ヘッドコーチ **能條 学**

はじめに挑戦できる環境を与えていただき、深く御礼申し上げます。このたびの2位につきましては、何よりも目標を達成できたことに安堵しております。最後まで努力を重ねてくれた選手、そしてスタッフ・事務局が一丸となって積み上げてきた結果であると受け止めております。今回は「喜び」に沸いた準優勝となりましたが、次のステージへと進み、持続的な成長を実現するため、着実に前進します。



コーチ(スカウト担当) **平野 進**

「チーム目標8位入賞」に向け、東日本実業団駅伝の優勝でも背伸びせず、ブレない監督の目標設定と選手の思いが合致し、今年の結果「第2位」を呼び寄せたように思います。平均年齢23.3歳と若いチームですが、2026年度は新入部員3名が加わりました。選手・スタッフともに足元をしっかり見つめながら、自滅しない強い組織づくりをめざしサポートしていきます。



マネージャー **小池 旭徳**

目標の8位入賞を上回る2位という結果に驚きもありますが、ここまで目標に向け取り組んできた選手、応援して下さるみなさんのおかげで引き寄せた結果だと思います。次の目標に向けもう一段階レベルアップできるよう日々精進します。



マネージャー **上田 健太**

おかげさまで目標としていた8位を大きく上回り、2位でゴールすることができました。この結果は、選手一人ひとりの努力はもちろんのこと、日頃から支えて下さっている関係者のみなさん全員で掴み取った成果であると受け止めております。今後さらなる高みをめざし、選手とともに挑戦を続けてまいります。



管理栄養士 **四條 淳子**

日々のトレーニングはもちろん、栄養管理や体調管理に前向きに取り組む選手がとて多くなりました。こうした選手の日々の努力の積み重ねが、チーム力を押し上げ、過去最高順位という結果につながったと思います。



第66回東日本実業団対抗駅伝競走大会 **初優勝**

記録 **3時間31分24秒**

東日本の頂点へ。昨年11月3日に行われた第66回東日本実業団対抗駅伝競走大会では初めての優勝を果たしました。埼玉県熊谷スポーツ文化公園陸上競技場および公園内特設周回コース(7区分74.6Km)で開催され、オープン参加の混成チーム2チームを含めた30チームが出場し、上位12位までの企業チームに与えられるニューイヤー駅伝への出場資格をかけた熱いレースが展開されました。

このレースでは3区を任された四釜キャプテンが8位から1位へ浮上する区間賞の快走を見せてくれました。その後、7区までの襷は選手たちの力走で首位のままつながり、最後はルーキーである平林選手がチーム初優勝となるゴールテープを切りました。

